



川は交通路として、どのように利用されているの

日本では、河川交通はおとろえた

日本では、江戸時代には、川は重要な交通路でした。船は、海から川をさかのぼり、いろいろな品物を運んだのです。

淀川は、京都・大阪と瀬戸内海の水運を結びつけ、利根川は、全国のいろいろな産物を江戸にとどける、重要な川でした。そのほかの小さな川でも、交通がさかんでした。

明治時代になると、各地に鉄道が引かれ、河川交通は、鉄道に取って代われ、すっかりおとろえてしまいました。

ヨーロッパなどでは、今でも河川交通がさかん

ヨーロッパやアメリカの川は、日本の川と比べ物にならないぐらいに水量が多く、しかも川はばが広く、今でも、交通路として、重要な役割をはたしています。

ヨーロッパの内陸部にある工業地帯は、大きな川や運河のほとりにあり、工業製品は、船で運ばれ、世界に輸出されています。

ライン川を通る船は、北海からさかのぼり、スイスのバーゼルという所まで行くことができます。また、ドナウ川は、ヨーロッパの国々を流れる国際河川で、今でも交通がさかんです。

アメリカでは、ミシシッピ川や、セントローレンス川を經由して五大湖までの河川交通がさかんです。（監修・保岡 孝之）

